

科目名 (英)	医学英語 (Medical English)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	片岡洋樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期 曜日・時限 火曜1限
教員の略歴	理学療法士として12年間の実務経験を有する、修士(医科学)所有。						
授業の学習内容	理学療法士に必要な英単語、文法、医学英語論文を実際に読み、抄読会を行い、国内外問わず多岐にわたる情報の中から自分が必要とする情報を選び、それを他へ伝えるという一連のプロセスを習得する。						
到達目標	①リハビリテーションに関する文献を読みこなすことができるよう、医学英単語、文法、医学論文に関する知識を習得する。 ②文献から得られた内容を他者に分かりやすく伝える。						
評価方法と基準	グループ発表(70%)、出席(30%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/6	講義	理学療法に必要な英単語を記することができる。①	
2	4/13	講義	理学療法に必要な英単語を記することができる。②	授業内容の復習
3	4/20	講義	理学療法に必要な英単語を記することができる。②	授業内容の復習
4	4/27	講義	文法の復習:文型を理解できる。	授業内容の復習
5	5/11	講義	英語論文の読み方を理解できる。	授業内容の復習
6	5/18	講義	PubMedを利用して論文を検索することができる。	授業内容の復習
7	5/25	講義	医学英語論文の和訳することができる。①	授業内容の復習
8	6/1	講義	医学英語論文の和訳することができる。②	授業内容の復習
9	6/8	講義	医学英語論文の和訳することができる。③	授業内容の復習
10	6/15	講義	医学英語論文の和訳することができる。④	授業内容の復習
11	6/22	講義	医学英語論文の和訳することができる。⑤	授業内容の復習
12	6/29	講義	医学英語論文の和訳することができる。⑥	授業内容の復習
13	7/6	講義	全訳した論文の発表準備ができる。①	授業内容の復習
14	7/13	講義	全訳した論文の発表準備ができる。②	授業内容の復習
15	7/20	講義	プレゼン:全訳した論文の発表ができる。	授業内容の復習
準備学習 時間外学習			講義参加後に復習する必要あり	
【使用教科書・教材・参考書】 □ 適宜、資料を配布する。				

科目名 (英)	内科学 (Internal Medicine)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	小川恵子
	学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	昭和63年弘前大学医学部卒業、医師免許取得。現在みちのく記念病院に勤務。						
授業の学習内容	①内科学の知識は理学療法を行う上で必要不可欠なものである。この講義では総論として、主要な症候の病態生理について理解し、各論として、各疾患特有の疫学、病態生理、検査、治療についての知識を習得する。 ② 内科学を理解する上では、解剖学、生理学、病理学等と関連が深い。 ③学生には予習復習を行い、各器官の基本的な解剖・生理と各疾患の症状や病態について説明できるようになることを願う。						
到達目標	患者の全身状態を把握するために内科的基礎的知識を身につけ、説明できる						
評価方法と基準	定期試験: 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/9	講義	内科学の概念と診断の進め方を説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
2	4/16	講義	臨床検査とデータの解釈に関して理解し、説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
3	4/16	講義	循環器系の解剖・生理と循環器疾患の主要な徴候について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
4	4/23	講義	高血圧、虚血性心疾患、弁膜症、心不全の病態を理解し、説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
5	4/23	講義	肺の解剖・生理と呼吸器疾患の主な症候について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
6	5/7	講義	呼吸器疾患の検査所見(画像検査、生理学的検査、喀痰検査、等)を説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
7	5/7	講義	感染性肺炎、慢性閉塞性肺炎、気管支ぜんそく、拘束性肺炎、肺腫瘍の病態を理解し、説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
8	5/14	講義	消化管の解剖・生理について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
9	5/14	講義	消化管疾患の徴候とその病態生理、各検査法を理解し、説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
10	5/21	講義	口腔疾患、食道疾患、胃疾患、小腸・大腸疾患について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
11	5/21	講義	肝臓、胆のう・胆管、膵臓の解剖・生理を説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
12	5/28	講義	急性ウイルス性肝炎、劇症肝炎、慢性肝炎、肝硬変の病態・症状について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
13	5/28	講義	腹膜の解剖・生理、急性・慢性腹膜炎について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
14	6/11	講義	前期に行った講義の要点を理解し、説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
15	6/11	講義	解説: 前期試験の正答を答えられる	その日のうちに講義の復習を行う
16	6/18	講義	血液の成分と生理、造血機能について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
17	6/18	講義	血液疾患の症候と検査法、各血液疾患について理解し、説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
18	6/25	講義	代謝調節の仕組みと各代謝性疾患(糖尿病、脂質異常症、メタボリックシンドローム等)を理解し、説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
19	6/25	講義	内分泌の仕組み、内分泌腺・ホルモンの解剖・生理について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
20	7/2	講義	視床下部症候群、下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患の病態・症状を理解し説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
21	7/2	講義	腎臓の解剖・生理、腎・尿路系疾患の各検査について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
22	7/9	講義	各腎・泌尿器疾患の病態・症状について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
23	7/9	講義	免疫系の働きについて説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
24	7/16	講義	アレルギー疾患、膠原病、免疫不全症について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
25	7/16	講義	感染症の成立、病原体、感染経路について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
26	7/23	講義	感染症の予防と、各感染症(細菌感染、真菌症、ウイルス感染、等)に関して説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
27	7/23	講義	皮膚の解剖・生理、各皮膚疾患について説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
28	7/30	講義	後期に行った講義の要点を理解し、説明できる	その日のうちに講義の復習を行う
	7/30	試験		
29	9/2	講義	演習問題を行い、正答を答えられる	その日のうちに講義の復習を行う
30	9/2	講義	解説: 後期試験の正答を答えられる	その日のうちに講義の復習を行う
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 標準運理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学(医学書院)				

科目名 (英)	救急医学 (Emergency Medicine)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	浅沼達二
	学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	医師 ・S53年、岩手医科大学卒業 ・S60年、浅沼整形外科を開院						
授業の学習内容	各臓器の疾患を理解し、鑑別診断を出来るようにします。 緊急の症状が出現した時、脳か、循環器科か、呼吸器科か、低血糖症状か鑑別できるようにします。						
到達目標	医師不在の施設に勤務する人が増えております。 緊急時のバイタルサインを正確に把握し、症状を正確に救急隊へ連絡し、搬送依頼を確実に出来るようにします。						
評価方法と基準	筆記試験(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5/6	講義	基礎的な専門用語を理解できる	講義内容の復習
2	5/6	講義	脳卒中、脳動脈を理解できる Japan comma scaleをとる事ができる	講義内容の復習
3	5/11	講義	脱臼、骨折(上下肢、体幹)について理解できる	講義内容の復習
4	5/11	講義	心電図の取り方と心電図の各波を理解できる	講義内容の復習
5	5/18	講義	各種不整脈(特に緊急を要する不整脈)を理解できる	講義内容の復習
6	5/18	講義	心電図用語を理解できる WPW症候群の波形は何を疑うかを説明できる	講義内容の復習
7	5/18	講義	心筋梗塞の病態・症状と緊急時に何をするかを理解できる	講義内容の復習
8	5/25	講義	肺区域、排痰処理とそれに基づく排痰体位を理解できる	講義内容の復習
9	5/25	講義	スパイログラム、フローボリュームの意味を理解し、検査結果を読むことが出来る	講義内容の復習
10	5/25	講義	悪性腫瘍(特に転移性悪性腫瘍)の概要を理解できる	講義内容の復習
11	6/1	講義	糖尿病・低血糖の病態、症状を理解できる	講義内容の復習
12	6/4	講義	意識障害・呼吸困難の概要を理解し、救急搬送の手順を実践できる	講義内容の復習
13	6/4	講義	高血圧・低血圧・てんかんの概要を理解し、各対処が行える	講義内容の復習
14	6/5	講義	頭痛・発熱、深部静脈血栓症の概要を理解し、その対処ができる	講義内容の復習
15	6/15	試験		
16	6/22	講義	試験解説を通し、試験問題の解答を理解できる	講義内容の復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □ 講義プリント、リハビリテーション リスク管理ハンドブック 第2版				

科目名 (英)	義肢装具学実習 (Practice of Prosthetics and Orthotics)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	梶原一将
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	実習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分 曜日・時限	前後期 本講 1・2時限
教員の略歴	理学療法士、急性期、亜急性期、地域包括ケア病棟、訪問リハビリで勤務を経て現在に至る。						
授業の学習内容	理学療法士として、義肢装具の作成時に必要な視点を中心に、適応・チェックアウトを理解し、体験する。義肢装具療法で出来ること、できないことを学び、理学療法(評価、運動療法)につながる理解を深める。また、現在の最新の動向を確認し、経験する。						
到達目標	義肢装具の作成過程の体験・見学を通し、義肢装具学で学んだ知識と技術の理解を深めることをめざす。 さらに、各疾患の詳細適応について学ぶ。						
評価方法と基準	筆記試験30%・レポート40%・出席率30%						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1	7/2	実習	下肢のアライメント評価の概要を説明できる	指定教科書該当ページの予読			
2	7/9	実習	足部のアーチ構造を理解し説明できる	指定教科書該当ページの予読			
3	7/9	実習	足部のアライメントを評価できる	指定教科書該当ページの予読			
4	7/16	実習	足部の簡易のアーチサポートを作成できる	指定教科書該当ページの予読			
5	7/16	実習	アーチ変化が身体に及ぼす影響を説明できる	指定教科書該当ページの予読			
6	7/23	実習	包帯による断端管理を実践できる	指定教科書該当ページの予読			
7	7/23	実習	包帯が関節固定に与える影響を説明できる	指定教科書該当ページの予読			
8	7/30	実習	包帯: 膝関節固定を実践できる	指定教科書該当ページの予読			
9	7/30	実習	包帯: 足関節固定を実践できる	指定教科書該当ページの予読			
10	8/6	実習	切断の評価と運動療法を説明できる	指定教科書該当ページの予読			
11	8/6	実習	義足のソケット、離手、適切な位置関係の説明ができる	指定教科書該当ページの予読			
12	8/27	実習	足のチェックアウトと修正方法を説明できる	指定教科書該当ページの予読			
13	8/27	実習	採型(AFO)を実践できる①	指定教科書該当ページの予読			
14	9/3	実習	採型(AFO)を実践できる②	指定教科書該当ページの予読			
15	9/3	実習	採型(AFO)を実践できる③	指定教科書該当ページの予読			
16	9/10	実習	装具のチェックアウトを説明できる	指定教科書該当ページの予読			
17	9/10	実習	短下肢装具の違いを説明できる	指定教科書該当ページの予読			
18	9/17	実習	長下肢装具の違いを説明できる	指定教科書該当ページの予読			
19	9/17	実習	長下肢装具の違いを説明できる疑似体験をする	指定教科書該当ページの予読			
20	9/24	実習	2関節以上の固定が身体に及ぼす影響について説明できる①	指定教科書該当ページの予読			
21	9/24	実習	2関節以上の固定が身体に及ぼす影響について説明できる②	指定教科書該当ページの予読			
22	10/1	実習	下肢へのテーピングを実践できる①	指定教科書該当ページの予読			
23	10/1	実習	下肢へのテーピングを実践できる②	指定教科書該当ページの予読			
24	10/8	実習	下肢へのテーピングを実践できる③	指定教科書該当ページの予読			
25	10/8	実習	車椅子の構造を説明できる	指定教科書該当ページの予読			
	10/9	実習	レポート課題				
26	10/15	実習	車椅子の修理方法を説明できる①	指定教科書該当ページの予読			
27	10/15	実習	車椅子の修理方法を説明できる②	指定教科書該当ページの予読			
28	10/22	実習	車椅子の修理方法を説明できる③	指定教科書該当ページの予読			
29	10/22	実習	日常生活補助具の概要を説明できる	指定教科書該当ページの予読			
30	10/29	実習	ソックスエイドを作成できる①	指定教科書該当ページの予読			
31	10/29	実習	ソックスエイドを作成できる②	指定教科書該当ページの予読			
32	11/5	実習	スライディングボードを作成できる①	指定教科書該当ページの予読			
33	11/5	実習	スライディングボードを作成できる②	指定教科書該当ページの予読			
34	11/12	実習	上肢へのテーピングを実践できる①	指定教科書該当ページの予読			
35	11/12	実習	上肢へのテーピングを実践できる②	指定教科書該当ページの予読			
36	11/19	実習	装具採型を説明できる①(PO)	指定教科書該当ページの予読			
37	11/19	実習	装具採型を説明できる②(PO)	指定教科書該当ページの予読			
38	11/26	実習	最新の装具の動向を知る①(PO)	指定教科書該当ページの予読			
39	11/26	実習	最新の装具の動向を知る②(PO)	指定教科書該当ページの予読			
40	12/3	実習	最新の義足の動向を知る①(PO)	指定教科書該当ページの予読			
41	12/3	実習	最新の義足の動向を知る②(PO)	指定教科書該当ページの予読			
42	12/10	実習	理学療法士に必要な義肢装具の知識①(PO)	指定教科書該当ページの予読			
43	12/10	実習	理学療法士に必要な義肢装具の知識②(PO)	指定教科書該当ページの予読			
44	12/17	実習	POの装具策を見学する①	指定教科書該当ページの予読			
45	12/17	実習	POの装具策を見学する②	指定教科書該当ページの予読			
	11/18	試験					
準備学習		時間外学習 講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり					
【使用教科書・教材・参考書】 □							
「装具学」 15レクチャー(中山書店)、「義肢学」 15レクチャー(中山書店)、備品の義肢・装具を使用							

科目名 (英)	理学療法技術論Ⅲ・呼吸器疾患 (Technical theory of Physical therapyⅢ)		必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	3年	担当教員	石島孝樹 古川雅一
	学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期・後期(通年) 集中等
教員の略歴	石島:主に急性期病院等で、約10年間に渡る呼吸理学療法の臨床経験を有する。 古川:2009年理学療法士免許取得。回復期病棟、訪問リハビリ等で循環器疾患をもつ症例への理学療法の実施経験あり。							
授業の学習内容	(呼吸器疾患) ①近年、呼吸器疾患が増大しており呼吸器に関する知識・技術の重要性が高まっている。 ②呼吸器は循環器との関係が深く、呼吸循環器として関連して理解する必要がある。また、理学療法全般においてリスクを管理する際の重要な知識である。 ③卒後、呼吸理学療法が実施できるセラピストに成長することを期待している。 この科目では、呼吸器疾患の基礎知識と病態・アプローチ方法を理解できるよう指導する。 (循環器疾患) 主要理学療法対象疾患の一つである循環器疾患を、まずリスク管理的観点から捉えられえよう、講義形式中心に授業を進めていく。							
到達目標	(呼吸器疾患) ①呼吸器疾患の基礎知識を理解する。 ②呼吸器疾患患者の病態から、正確に身体状況を把握することができる。 ③呼吸器疾患患者に対する評価とアプローチ内容を理解することができる。 (循環器疾患) リスク管理の概念を理解する 虚血性心疾患・心不全の病態特性と理学療法の位置づけを理解する 運動療法プログラム立案に必要な評価項目とプログラムの実践を実践できる							
評価方法と基準	(呼吸器疾患) 1)定期テスト60% 2)出席数40% (循環器疾患) 筆記試験(本試験80%、確認テスト20%)							
授業計画・内容								
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)				
1	6/17	講義	呼吸器の構造と運動を説明できる。	講義の復習を行う事				
2	6/24	講義	呼吸器の生理機能を説明できる。	講義の復習を行う事				
3	7/1	講義	呼吸器疾患について説明できる。	講義の復習を行う事				
4	7/8	講義	呼吸理学療法評価を説明できる。	講義の復習を行う事				
5	7/15	講義	徒手的手技について説明できる。	講義の復習を行う事				
6	7/29	講義	酸素療法について説明できる。	講義の復習を行う事				
7	8/4	定期テスト	授業で学んだことを記述できる。					
8	8/12	テストの解説	テスト結果から自己の課題を抽出する。	講義の復習を行う事				
9	9/25	講義	心臓と血管の構造と機能を説明できる	講義の復習を行う事				
10	10/2	講義	心電図と不整脈の診方が理解できる	講義の復習を行う事				
11	10/9	講義	運動耐容能とその評価が理解できる	講義の復習を行う事				
12	10/16	講義	虚血性心疾患、心臓弁膜症と心筋症の病態・検査と治療が理解できる	講義の復習を行う事				
13	10/23	講義	心不全に加え大動脈および末梢動脈疾患の病態・検査と治療が理解できる	講義の復習を行う事				
14	10/30	講義	糖尿病の合併症と治療について理解できる	講義の復習を行う事				
15	11/6	講義	心血管に対する運動療法実施プログラムと疾病管理および患者教育について理解できる	講義の復習を行う事				
16	11/13	試験						
17	11/20	講義	試験解説および総復習	講義の復習を行う事				
準備学習 時間外学習			教科書や配布資料にて講義の確認を行い試験に備える事					
【使用教科書・教材・参考書】 □								
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト<内部障害理学療法学 呼吸> 第2版(中山書店)								
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト<内部障害理学療法学 循環・代謝> 第2版(中山書店)								

科目名 (英)	理学療法技術論Ⅴ・難病・スポーツ障害 (Intractable Disease,Sports Disease)		必修 選択	必修	年次	3	担当教員	茂呂 行哲
	学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義・実技	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期 火曜 曜日・時限 1・2時限
教員の略歴	理学療法士、2012年4月～2015年3月まで介護老人保健施設勤務。2015年4月～2017年5月まで整形外科病院(外来)勤務。2017年5月～高齢者の健康増進教室。							
授業の学習内容	難病・スポーツ障害に対する理学療法評価・治療について学ぶ。症例検討も行う。							
到達目標	難病・スポーツ障害と理学療法の概念を理解することができる。 「難病」の定義が言える。「指定難病」の要件を言える。難病患者の就労について説明できる。具体的な難病の病態と治療法を説明できる。 臨床評価実習における難病・スポーツ障害に対するイメージを身につけることができる。							
評価方法と基準	授業態度(30%) 定期試験(70%)							
授業計画・内容								
回数	日程	授業形態	学習内容			準備学習 時間外学習(学習課題)		
1	10/1	講義	「難病」・「指定難病」の定義が言える。障害者基本法の難病を言える。			講義内容の復習を行う		
2	10/1	講義	障害者総合支援法の難病を言える。合理的配慮について説明できる			講義内容の復習を行う		
3	10/8	講義	インクルーシブ・障害の「医学モデル」・「社会モデル」を説明できる			講義内容の復習を行う		
4	10/8	講義	器官劣等生・環世界を説明できる			講義内容の復習を行う		
5	10/15	講義	バリアフリー・ユニバーサルデザインを説明できる			講義内容の復習を行う		
6	10/15	講義	難病者の就労について説明できる			講義内容の復習を行う		
7	10/22	講義	難病相談・支援センターの機能について説明できる			講義内容の復習を行う		
8	10/22	講義	脊髄性筋萎縮症の病態・訓練法を説明できる			講義内容の復習を行う		
9	10/29	講義・実技	スポーツ障害と理学療法(総論、コンディショニング)について理解する。			講義内容の復習を行う		
10	10/29	講義・実技	スポーツ障害と理学療法(総論、コンディショニング)について理解する。			講義内容の復習を行う		
11	11/5	講義・実技	膝関節の靭帯損傷(膝関節の解剖・運動、受傷メカニズム)を理解する。			講義内容の復習を行う		
12	11/5	講義・実技	膝関節の靭帯損傷(運動連鎖、動作分析)を理解する。			講義内容の復習を行う		
13	11/12	講義・実技	上肢のスポーツ障害(投球障害肩等)について理解する。			講義内容の復習を行う		
14	11/12	講義・実技	上肢のスポーツ障害(運動連鎖、動作分析)について理解する。			講義内容の復習を行う		
	11/19	試験						
15	11/26	講義・実技	試験の解説を行う。学習内容の総復習を行う。			講義内容の復習を行う		
準備学習 時間外学習		各学習内容の予習・復習を行う						
【使用教科書・教材・参考書】 □								
資料随時配布								

科目名 (英)	理学療法演習 I (Practice PT)		必修 選択	必修	年次	3	担当教員	1)茂呂行哲 2)佐藤美紀
	学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 2	開講区分	通年 曜日・時限
教員の略歴	1)2012年4月～2015年3月まで介護老人保健施設勤務。2015年4月～2017年5月まで整形外科病院(外来)勤務。2017年5月～高齢者の健康増進教室。2019年6月～訪問看護ステーションにて訪問リハビリ。2)臨床歴:1983年4月～1994年3月総合リハ病院勤務。1997年4月～2001年3月デイサービス勤務。2002年4月～2007年12月病院・老健施設勤務。2011年4月～2015年12月病院勤務(顧問・指導)。講師歴:介助法講師。臨床動作分析講習会講師。他							
授業の学習内容	3年次までに学んできた知識と技術を応用し、疾患と病態を読み解き、臨床に紐付ける。 まず正常な動きのイメージを明確にし、各疾患特異的な動きを学ぶ。 医療人として相応しい礼節・態度を学ぶ。							
到達目標	疾患と病態を関連付けることができるようになる。 正常な動きと異常な動きとの違いに気づくことができるようになる。							
評価方法と基準	1)筆記試験50% 2)実技試験30% 3)レポート20%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/2	講義・演習	オリエンテーション	上肢の解剖学・運動学の復習
2	9/2	講義・演習	上肢の解剖学・運動学、mobilityの確認と触診	上肢の解剖学・運動学の復習
3	9/9	講義・演習	上肢の解剖学・運動学、mobilityの確認と触診	上肢の解剖学・運動学の復習
4	9/9	講義・演習	上肢の解剖学・運動学、mobilityの確認と触診	上肢の解剖学・運動学の復習
5	9/16	講義・演習	下肢の解剖学・運動学、mobilityの確認と触診	下肢の解剖学・運動学の復習
6	9/16	講義・演習	下肢の解剖学・運動学、mobilityの確認と触診	下肢の解剖学・運動学の復習
7	9/30	講義・演習	下肢の解剖学・運動学、mobilityの確認と触診	下肢の解剖学・運動学の復習
8	9/30	講義・演習	下肢の解剖学・運動学、mobilityの確認と触診	下肢の解剖学・運動学の復習
9	10/7	講義・演習	関節各論 (脊柱の評価)	脊柱の解剖学・運動学の復習
10	10/7	講義・演習	関節各論 (脊柱の評価)	脊柱の解剖学・運動学の復習
11	10/14	講義・演習	関節各論 (肩関節と股関節の評価)	各関節に関連する疾患についての復習
12	10/14	講義・演習	関節各論 (肩関節と股関節の評価)	各関節に関連する疾患についての復習
13	10/21	講義・演習	関節各論 (肘関節と膝関節の評価)	各関節に関連する疾患についての復習
14	10/21	講義・演習	関節各論 (肘関節と膝関節の評価)	各関節に関連する疾患についての復習
15	10/28	講義・演習	関節各論 (手関節と足関節の評価)	各関節に関連する疾患についての復習
16	10/28	講義・演習	関節各論 (手関節と足関節の評価)	各関節に関連する疾患についての復習
17	11/4	講義・演習	姿勢観察 (姿勢パターン、筋緊張、反応)	正常な姿勢についての復習
18	11/4	講義・演習	姿勢観察 (姿勢パターン、筋緊張、反応)	正常な姿勢についての復習
19	11/11	講義・演習	姿勢観察 (重心・質量配分)	各体節毎の質量、平衡反応についての復習
20	11/11	講義・演習	姿勢観察 (重心・質量配分)	各体節毎の質量、平衡反応についての復習
21	11/18	講義・演習	動作観察 (歩行:正常歩行)	歩行周期、歩行時の筋活動についての復習
22	11/18	講義・演習	動作観察 (歩行:正常歩行)	歩行周期、歩行時の筋活動についての復習
23	11/25	講義・演習	動作観察 (歩行:異常歩行)	各疾患に特徴的な歩行様式についての復習
24	11/25	講義・演習	動作観察 (歩行:異常歩行)	各疾患に特徴的な歩行様式についての復習
25	12/2	講義・演習	動作観察 (起居動作:支持基底面と身体重心)	正常な起居動作パターンについての復習
26	12/2	講義・演習	動作観察 (起居動作:支持基底面と身体重心)	正常な起居動作パターンについての復習
27	12/9	講義・演習	動作観察 (起居動作:関節運動と筋活動)	正常な起居動作パターンについての復習
28	12/9	講義・演習	動作観察 (起居動作:関節運動と筋活動)	正常な起居動作パターンについての復習
29	12/16	講義・演習	クリニカルリーズニング	これまでの授業の復習
30	12/16	講義・演習	クリニカルリーズニング	これまでの授業の復習
		定期試験		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <ul style="list-style-type: none"> PT・OTのための臨床技能とOSCE: コミュニケーションと介助・検査測定 編 (金原出版) 理学療法評価学 改訂第5版(金原出版) 動作分析 臨床活用講座—バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 (MEDICAL VIEW) 他 				

科目名 (英)	臨床評価実習 (Evaluation of Clinical Practice)		必修 選択	必修	年次	3	担当教員	①片岡洋樹 ②茂呂行哲
	学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義・演習・実 習	総時間 (単位)	240 (6)	開講区分	通年 曜日・時限
教員の略歴	①理学療法士免許取得後12年経過(急性期・回復期・生活期経験)、修士(医科学)保有 ②理学療法士免許取得後10年経過(生活樹・急性期・外来経験)							
授業の学習内容	臨床実習指導者のもと、理学療法業務全般を経験する。この実習は医療人としての接遇と的確な評価(知識・技術など)が実践できる。 ① 情報収集～統合と解釈までの流れを体験することで、今後の学習課題を認識させる機会をもたせる。 ② 医療人としての態度を学ぶ。							
到達目標	ケースを通じて、競技の意味での評価の一連の流れを体験し、ケースに必要な検査・測定ができるようになる。広義の意味での評価を「指導」により体験することで、障害を理解し、情報をつなげていく過程を学ぶ。 ① 基本的な評価技術と治療の立案につながる過程を学ぶ。 ② 患者に丁寧な対応を続けられるようになる。 ③ 治療器具・備品などの基本的な取り扱いと使用目的を学ぶ。							
評価方法と基準	【学外】 実習施設での評価(各項目のチェック内容、総合判定及び総括コメント): 40% 【学内】 学校での実習報告(レポートとレジュメ)、デイリーノートおよびケースノート: 60%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1~4		講義	実習オリエンテーション 「臨床評価実習」の概要・目的を理解できる。	講義内容の復習、次回の予習
5~8		演習	実習前OSCE 「臨床評価実習」にあたっての基本的な技能を実施できる。	事前練習
9~68		実習	学外 臨床評価実習	日々の復習
準備学習 時間外学習		学外 臨床評価実習に向けた自己学習、実技練習を行う。		
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	臨床実習 I (Evaluation of Clinical Practice)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	①片岡洋樹 ②茂呂行哲
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義・演習・実 習	総時間 (単位)	280 (7)	開講区分	通年 曜日・時限
教員の略歴	①理学療法士免許取得後12年経過(急性期・回復期・生活期経験)、修士(医科学)保有 ②理学療法士免許取得後10年経過(生活樹・急性期・外来経験)						
授業の学習内 容	臨床実習指導者のもと、理学療法業務全般を経験する。この実習は医療人としての接遇と的確な評価(知識・技術など)が実践できる。 ① 情報収集～統合と解釈までの流れを体験することで、今後の学習課題を認識させる機会をもたせる。 ② 医療人としての態度を学ぶ。						
到達目標	ケースを通じて、競技の意味での評価の一連の流れを体験し、ケースに必要な検査・測定ができるようになる。広義の意味での評価を「指導」により体験することで、障害を理解し、情報をつなげていく過程を学ぶ。 ① 基本的な評価技術と治療の立案につながる過程を学ぶ。 ② 患者に丁寧な対応を続けられるようになる。 ③ 治療器具・備品などの基本的な取り扱いと使用目的を学ぶ。						
評価方法と基準	【学外】 実習施設での評価(各項目のチェック内容、総合判定及び総括コメント): 40% 【学内】 学校での実習報告(レポートとレジュメ)、デイリーノートおよびケースノート: 60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1～60		実習	学外 臨床実習 I	日々の復習
61～64		演習	実習後OSCE 「臨床実習 I」にあたっての基本的な技能を実施できる。	事前練習
65～68		実習	実習後オリエンテーション	講義内容の復習
準備学習 時間外学習		学外 臨床評価実習に向けた自己学習、実技練習を行う。		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
随時参考書類配布				